

第3回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和56年2月25日（水）
午後2時～2時20分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 第7号科学衛星（ASTRO-A）の打上げ結果について
4. 資 料
委-3-1 第2回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）
委-3-2 M-3S-2号機による第7号科学衛星（ASTRO-A）の打上げ結果の概要

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理

吉 識 雅 夫

“ 委員

斎 藤 成 文

“ “

井 上 啓次郎

“ “

大 塚 茂

説明者

東京大学宇宙航空研究所教授

森 大吉郎

“ “ “

林 友 直

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

勝 谷 保

文部省学術国際局審議官

大 崎 仁

（代理：横山）

通商産業省機械情報産業局次長

小 長 啓 一

（代理：吉田）

運輸省気象庁総務部長

森 雅 史

（代理：山中）

郵政省電波監理局審議官

三 浦 一 郎

（代理：木原）

“ “ 宇宙通信開発課

九 里 茂

建設省大臣官房技術参事官

沓 掛 哲 男

（代理：土肥）

東京大学宇宙航空研究所

福 島 玉 男

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

吉 村 晴 光

“ “ 宇宙国際課長

佐 藤 允 克

“ “ 宇宙開発課長

高 木 宏 明

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第2回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案（資料委-3-1）が確認された。

(2) 第7号科学衛星（ASTRO-A）の打上げ結果について

東京大学宇宙航空研究所の森 大吉郎教授及び林 友直 教授より、資料委-3-2に基づき説明が行われ、以下の補足説明及び質疑応答が行われた。

(補足説明)

森：昨年 2 月の M-3 S-1 号機の打上げにおいて生じた機体の
3 次曲げ振動については、所要の改善を施し、今回の打上げ
においては抑えることができた。

(質疑応答)

井上：A S T R O - A の寿命は何年か。

林：設計寿命は 1 年であるが、可能であればその後も観測を続け
たい。

吉識：観測機器の電源投入に数日間も要するのは何故か。

林：電源の投入は、慎重を期すため、これまでの経験をもとに
作りあげた以下の手順によつて行うことにしている。

① 短時間電源を入れて各部の機能を確認する作業を繰返し、
電源が正常に動作するという自信が得られたのち、正規の
電源投入を行う。

② ①の作業を各観測機器の電源ごとに行う。

このため、作業に時間がかかり、各観測機器の電源投入を同
時に行うことはできない。